

私とイルカ



皆様はどういう事に癒しを感じますか？

私は魚や動物が好きなので、よく水族館や動物園に癒しを求めに行きます。

さて、今回は皆様もよく御存知、私も大好きなイルカについてのお話をさせていただきます。

水族館でショーをしているイルカを思い出してください。あの「バンドウイルカ」、顔をよく見ると笑っているように見えるんですよ。生息地によって異なりますが、体長は2〜4m、体重は大きいもので650kgにもなります。触るとちよつと固めの茄子のような感じですよ。人懐っこく好奇心旺盛でいたずら好きな性格です。よく「キューキュー」と鳴いているように聞こえますが、イルカには声帯がなく噴気孔の近くに6個の気嚢(きのう)を用いて様々な音を出しています。

ます。

ショーができるという事は、人間の言葉を理解していると言う事になります。「この輪を投げるから取ってきて」程度の文章が理解でき、一頭のイルカだけを調教しても、イルカ同士でコミュニケーションを取り、他のイルカに伝達する事もできるのです。

私は以前、和歌山のプールでイルカと一緒に遊んだ事があります。飼育員だけ

母が認知症になつて想う事

最近よく話題になる認知症ですが我が家も例外ではありませんでした。私の母は父が亡くなって一人暮らしをするようになってから少しずつ症状が現れ、今はもう娘の顔もわからない状態になつています。幸いには体の方は丈夫なので介護施設でお世話になる事ができ家族の負担は思いの他少なく助かっています。母が認

でなく、私が合図を出しても、握手をしてくれたり、頬にキスをしてくれたりしました。中でも一番楽しかったのは、背中に乗せてもらった事です。背ビレを掴んで後ろ向きに乗ったのですが、スピードも早く乗り心地が良かったです。「いつか野生のイルカと一緒に大きな海で泳いでみたいなあ」と夢みています。(介護支援専門員 川野真芸)

知症とわかつた時は、私自身現実を受けとめられず落ち込んでしまいました。母は若い頃から明るく社交的で認知症なんて無縁のものだと思込んでいたので信じられない思いでした。入居者の方々と同じ話題を繰り返して話している母の姿は、以前と少しも変わりなく認知症であるのが嘘のようです。ですが確かに少しずつ進行しています。昔の楽しかった事だけを想いなが



漢方入門 ③⑤ 「皮膚のかゆみを解消」

今回は「老人性皮膚掻痒症と漢方」についてご紹介させていただきます。老人性皮膚掻痒症とは、はっきりした皮膚の異常がない、高齢者の皮膚のかゆみのことです。主な原因は「皮膚の乾燥」です。加齢に伴い、皮脂の分泌量は減少しがちです。すると、皮膚に水分を十分にためられなくなり、皮膚が乾燥します。その結果、皮膚の防御機能が弱くなり、ちょっとした刺激でかゆみが生じるようになるのです。西洋医学では、「保湿クリーム」で皮膚の乾燥を防ぎます。それでもかゆみがとれないときは、「抗ヒスタミン薬」の塗り薬や飲み薬でかゆみを抑えていきます。

漢方医学ではかゆみのほかに、皮膚の乾燥や全身の体力の状態、個人の体質などをみて処方します。たとえば、かゆみが強く、粉をふいているような場合には皮膚を潤す作用のある当帰飲子(トウキインシ)がよく用いられます。また、かゆみのためにかきむしって傷や炎症がある、熱を伴っているような場合には炎症を抑える温清飲(ウンセイイン)や黄連解毒湯(オウレンゲドクトウ)などが有効です。かゆみでお悩みの方がいらっしゃいましたらお気軽にご相談ください。

ら日々楽しく暮らしている母をみるにつけ、これ以上進行せず体の状態を維持できればいいのと思う毎日です。

母のこれからの人生を見守っていきたくと心から思っています。(医療事務 原野喜美栄)



曾山医院

胃腸科・外科・内科・肛門科

☎656-2131 兵庫県淡路市志筑1391-9 ☎0799-62-5566

編集委員会

岡崎博子 谷岡尚子
福井真巳 赤松陽子
西岡博子 棟近成氏